



「私だけ！」から「してあげたい」へ

京都市 さくら保育園

私だけを見てほしい

1歳6か月のA児は、自己主張をしっかりとする甘えん坊です。他児が保育者に抱っこを求めたり甘えたりすると、「私が！」というように、間に入ってくるのが増えてきました。保育者のひざを取り合って、他児を押ししたり、たたいたり。A児の行動からは「私だけ！」という思いがあふれていました。その一方、ふとしたときに保育者のまねをして、「よく見ていますなあ」と驚かされることもありました。

A児の思いにじっくりとよりそい、満たしていくこと。行動を否定したり正したりするのはなく、そのつど「こうしたらいいね」と心地よいかかわりを見せること。また、他者との心

地よいかかわりを、実体験を通して知らせていくこと。これら大切に、年の離れたきょうだいがいる家庭環境も踏まえ、異年齢のなかでもとくに年長児とかわる機会を積極的につくりました。

満たされると世界が広がる

保育者間で声をかけ合い、A児が求めるときにしっかりとこたえること、年長児にお世話をしてもらう機会をつくることを続けていくなかで、A児の姿に変化が現れました。他児を見るA児の表情が少しやわらかくなり、押ししたり、たたいたりすることが少なくなりました。

ある日、A児より月齢の低いB児が泣いていると、少し離れたところのいたA児がそばに寄って行きました。「どうする

のだろう？」と、ようすを見てみると突然、空のかごを頭にかぶりました。「何が始まるの？」と驚いたようすで、思わず涙が止まったB児。するとA児が「ないない……ばあ！」と顔を出し、B児は大笑い。

また別の日には、外に出るための帽子と靴下の箱を持ってきて自分の準備を済ませると、他児の帽子を手に取り、一人ひとりにかぶせていきました。さらには、靴下まではかせようと一生懸命な姿も見られました。これらは、A児が保育者や年長児にしてもらったことなのです。

「私だけを見てほしい」という気持ちが十分に満たされること、心地よいかかわりをしてもらうことで「私と先生」の世界から、「私とお友だち」「私とほかのクラスのお友だち」へと世界が広がっていくのだと感じました。子どもにとつては身近な存在がいつでも手本であり、「してもらった経験」が「してあげたい思い」へとつながり、その繰り返しが心を成長させていくことをあらためて学びました。

保育のヒント

年長児とかわる生活の豊かさ

西川 由紀子

1歳半を超える頃、子どもたちは指さしやことばを駆使して、自分の思いをうまく相手に伝えることができるようになってきます。でも、思いを強くもちすぎても、思いのように手が出てしまうこともあります。そんなとき、現象だけを見てとがめるのではなく、思いを受けとめてかわかることで、保育者の思いを受けとめる余裕ができてくるのだと思います。

A児は、年長児とのかわりのなかで変化していきます。お兄さん、お姉さんたちの動きをよく見ていて、自分より少し小さい子どもに、その学びを実践しているのです。

このように異年齢の子どもとのかかわりができることは、集団保育ならではのことであります。この園ではゼロ歳児が、1歳児や2歳児クラスの子ともかわる機会もあるそうです。そこでは、より身近なお兄さん、お姉さんに世話をしてもらいながらも、憧れのあそびに入り、少し背伸びをするひとときを楽しめるのです。そうして多様な人間関係がつけられるなか、ときには甘え、ときにははりきってお世話をし、1歳なりに、いろいろな自分の姿を発揮して楽しむのでしよう。

年度途中で新入園児を迎えたり、友だちがひとつ上のクラスに移動したりすることが増えてくるこの時期。おとなも子どももみんなが知り合って、クラス間の垣根を少し下げた異年齢の交流を行うことは、価値があるのではないのでしょうか。

(京都華頂大学教授)

京都市 さくら保育園

子ども同士のつながりを豊かに

ゼロ歳児も、園生活を過ごすなかで、他児の存在を意識するようになります。「自分と先生」の世界に友だちが加わり、その世界を豊かにしていくには、保育者のかかわりが重要です。園生活において、一番身近で安心できる存在である保育者が、他児とのかかわりの手本となるとともに、あそびや人的・物的環境を通して子ども同士をつなぐことを常に意識しながら、日々の保育をしています。なかでも大切にしている3つのポイントを紹介します。

Point ①

「嬉しいね」「楽しいね」と気持ちを代弁しながら、子ども同士の気持ちをつなげます。



保育者がするのと同じように、空のかごをかぶって「いないいない、ばあ!」。泣いていた子どもも涙が止まって、大笑いです。

Point ②

異年齢児との交流を通して、他者とかわる心地よさを感じる機会をつくっています。



園庭あそびに出る前、ゼロ歳児クラスの子どもが、2歳児クラスの子どもに靴を履かせてもらっています。

Point ③

経験をあそびにつなげるなど、「表現できるあそび」を取り入れるようになっています。



ままごとあそびのなかで、ぬいぐるみを赤ちゃんに見立てて、いつも自分がしてもらっているように、寝かしつけをしています。

子どもたちが生まれて初めて経験する「家庭以外の世界」。これからどんどん広がっていく人間関係に向けて、「人とかわるって楽しい!」と思える基盤づくりを大切にしています。「人が大好き!」の笑顔が広がることを願って……。